

利用・用途・応用分野

膵がん治療、個別化医療

目的・課題

膵がんに対する化学療法において個々の患者での副作用の発生リスクの予測を可能として個々のがん患者に適切な抗がん剤による治療いわゆる個別化医療が求められている。そこで、膵がんに対する化学療法において、特定の遺伝子をコードする塩基配列の所定の領域における一塩基多型を分析することにより副作用の発生リスクを予測するための簡便かつ効率的な手段を提供することを課題とする。

解決ポイント

- ◆APCDD1L遺伝子、R3HCC1遺伝子又はEDEM3遺伝子をコードする領域における一塩基多型が、mFOLFIRINOX療法による副作用の発生リスクの予測を補助する因子であることを見出し本発明を完成した。
- ◆被検者から採取された生体試料中のゲノムDNA上に存在する、
 - (a)APCDD1L遺伝子におけるrs1980576で特定される一塩基多型又は当該一塩基多型と連鎖不平衡若しくは遺伝的連鎖にある一塩基多型;
 - (b)R3HCC1遺伝子におけるrs2272761で特定される一塩基多型又は当該一塩基多型と連鎖不平衡もしくは遺伝的連鎖にある一塩基多型;
 - (c)EDEM3遺伝子におけるrs9425343で特定される一塩基多型又は当該一塩基多型と連鎖不平衡若しくは遺伝的連鎖にある一塩基多型;の(a)~(c)のいずれかの一塩基多型を分析し当該一塩基多型における遺伝子型を判定し、判定した遺伝子型に基づいて膵がんに対する化学療法を行った場合における副作用の発生リスクの予測を補助する。

研究概要・アピールポイント

- ◆膵がんに対するmFOLFIRINOX療法、FOLFIRINOX療法、又はそれらの改変レジメンにおいて、副作用の発生リスクの予測を補助することが可能となる。
- ◆かかる方法を用いて個々の患者での副作用を予測することで、膵がん患者により奏効率(がん治療後がん細胞が縮小又は消滅した患者の割合)の高い治療の選択機会を提供することや個々の膵がん患者に適切な抗がん剤による治療、いわゆる個別化医療を行うことが可能となる。

◆ お問合せ先 ◆

有限会社山口ティール・エル・オー TEL: 0836-22-9768 E-mail:tlojim@yamaguchi-u.ac.jp